

第15回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

**優 秀 賞**

実践報告部門

**学童によるミニ・ミュンヘン活動に  
おける金融教育**

～ろりぽっぷクラブのミニ・ミュンヘン計画の実践報告～

宮城県・ろりぽっぷ学園 ろりぽっぷクラブ支援員・幼稚園教諭 半沢 一樹

**知るぽると**  
www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2018

## 1. ろりぽっぷミニ・ミュンヘン計画のねらい

本学園では、保育園・幼稚園・小規模保育園・学童保育の4つの施設が同じ敷地内に存在しており、学童保育では1～6年生までの学童の放課後保育を行っている。2013年から学童保育の中でミニ・ミュンヘンの活動を取り入れてきた。ミニ・ミュンヘンとは、ドイツのミュンヘン市が支援している活動である。そこでは子どもたちが政治や学校・店などで各々がやりたい仕事に就きながら仮想通貨を稼ぎ、それをその社会の中で実際に消費することが出来る小さな社会を作っている。

本園の「ろりぽっぷミニ・ミュンヘン計画」（以下、「ミニ・ミュンヘン」という。）では、普段の生活で行っている活動を仕事として捉え、そこに給料を支払い、園内での小さな社会を作ることを目的にした。その中で、（1）遊び・創造性（遊びそのものを追求し、その遊びの中で創造性を育む。）（2）参画・主体性（大人の介入が無い事で子どもの主体性や自発性を育む。ひいては、子どもが社会に関わっていく力を支え、引き出していく。）（3）コミュニケーション能力（子ども自身が他者との会話を通じてコミュニケーション能力を育む。また、地域の世代間、立場間のコミュニケーションを誘発していく。）この3つの育ちを大切にしながら、子どもたちが実際に仕事をして誰かを喜ばせることの嬉しさや、社会の仕組み・社会のお金の流れを学ぶこと、そしてそこから新しい仕事を生み出す力を育めるように活動をしている。

## 2. ミニ・ミュンヘンの実施計画

ミニ・ミュンヘンでは、時期を追って段階的に子どもたちの生活の中にこの活動を組み込むことが出来るように、活動を進めていった。具体的には（1）週に1回、保育者から活動（仕事）を提案し、やりたい子を募り、活動していく。（2）週に1回、子どもからの発信で活動を作り、保育者が準備をして活動を進める。（3）週に2～3回、子どもからの発信で、その子がやってみたい活動を準備等も含めて、その子自身で進めていく。（4）毎日の生活の中で仕事・消費が出来る場を作っておく。（5）子どもたち自身で活動の企画、必要物品を考え、物の仕入れも自らのお金で行い、売り上げの分配なども自分たちで行っていく。（6）地域のお店や、仕事をしている人と関わりを持つことで、子どもたちがより仕事を身近に感じながら、活動に取り組むようになる。また、新しい仕事のアイデアを生み出す力を引き出していく。（7）地域の店や施設と連携しながら、その地区の職場で実際に働き、そこで得た地域の仮想通貨を、その地域の中で実際に消費していけるようにしていく。という7つの実践段階に分けて活動を進めた。

## 3. ミニ・ミュンヘンの実際

### ・初年度からの取り組み

本園のミニ・ミュンヘンでは、画用紙で作った仮想通貨（通貨名：ポップ）を使い、遊びのコーナーの一部として保育者がカフェ（お茶やカルピスなどを売る）や飼育員（園の動物の世話をする）などの仕事を週に1回程度のペースで展開していった。その後、子どもたちが仕事に慣れてきたころから、子どもたちの興味に合わせて自分たちがやってみたい店（ネイル屋さん、プラバン屋さんなど）を開店できるようにしていき、ミュンヘンの活動を楽しみながら行えるように進めていった。

### ・今年度の事例報告

活動開始から5年目となる今年は前述2.（5）（6）の段階で活動を行っている。今年の7月に燻製屋さんを行った子どもたちの開店までの事例を、子どもたちの実際の声も交えて説明していく。

#### ①企画の発案

2年生のMがTVアニメで登場人物が燻製を作って食べていたのを見て「昨日TVで見た燻製で店をやりたい」と言う。そこで、燻製はどのようにして行うかを保育者からは答えを提示せずに一緒に作り方を調べていく。まずは、園にある本を色々探したり、給食室の先生の話聞きながら、フライパンにチップを敷いて燻製を作る方法をまとめていく。

#### ②実験

調べた結果から、スモークチップが必要という事が分かった子どもたちは、保育者から園の枯れた桜の木を買い、ドリルで加工してもらったチップを使い、園にあるフライパン・鍋・網などを用意して、それらを用いて焚火の準備から火の管理まで自分たちの力で行い、実際に燻製を行っていく。1回目の実験では、チップの量が多く火が直接引火してしまい

チップが全て燃える。5年生のTが「これじゃ、多すぎたんじゃない？もっと減らしてみよう」とアドバイスし、一緒に参加する。その後も、桜の枝をそのまま入れてみたりしながら、何とか作り終える。「なんか思ったより難しいね」「(TVで使っていたような) 道具が足りないのかも」「作るのに少し時間が掛かりすぎるよ」とそれぞれから課題が上がる。

#### ③考察・改善

数日後、先日の燻製の様子を見ていた6年生のMが「この間のやり方だと難しいから、家に帰って調べてみたら、段ボールでもやれるらしいよ」と教えてくれる。その後、5年生のTと共に「試しに一回作ろう」と燻製器を作ってみる。そして、その作り方を紙に書き、スモークウッドを使っての燻製の作り方をまとめる。その後、また調理を実験してみて「これなら簡単だから、これで店をやろう」と出店の準備に入る。

#### ④仕入れ・出店準備

本園では、子どもたちが持っている仮想通貨(通貨名:ポップ)を実際に円に交換して、食材などの購入を行っている。交換するときには申請書を園長に届ける。6年生のMが中心となり、まずは一緒に店を行う社員を集めるところから活動を進めていく。その後、「何の食材を使うか?」「どこの店で購入するか?」「1つ何円で売れば利益が出るのか?」を考え、出店の準備を行っていく。その中で「チーズはやっぱり高いなあ」「でも、あれはすごく美味しいから高くても買うよ」「じゃあ、やっぱりチーズを入れよう」という意見や、「ウイナー1本だと高いからポークピッツとかにしようか!」「もし1つずつ売って余ったらどうする?」「セットで売って割引にする?」など、どのようにしたら客に喜んでもらえるか、商品の需要を考え商品を決めていった。商品を決定してからは、各自が自宅のチラシを見たり、教師・親などから話を聞き、値段を調べてどのくらいの値段で購入し販売するかを決めていく。そこでは「大体1つ70ポップ以上で売らないと利益が出ないね」「最低でも30個は売らないと損するね」と販売の価格を決めていき、商品の概要・値段が整うと、チームのメンバーと相談し合いながら各自自分の仮想通貨を出し合い、資本金を園長先生のもとへ持っていく、円に換えてもらう。その後は、職員と共に実際に近所のスーパーに行き、自分たちの決めた材料を購入していく。

#### ⑤販売

販売では、事前に自分たちで作ったポスターで開催日を打ち出し、当日の朝から、場所の準備や燻製器の準備を6年生の店長の指示をもらいながら、開店の準備をしていく。その中で仕事の役割も相談しながら決めていき、「(3年生の)Yは計算が得意だから、お客さんの通帳からお金を引くレジ係」「(5年生の)Rは受付で注文聞いて、「(5年生の)Aはお客に商品運んで、(6年生の店長)俺は燻製を見て、出来たら運んでいくから」と開店の準備を進めていく。また開店後も「お客さん減ってきたから、俺(Y君)が受付もやるから、R君は呼び込みして宣伝してきて」と新たな役割を自分たちで作り、動く姿も見られてきた。

#### ⑥集計・まとめ

集計では、売り上げを保育者と共に計算しながら、自分たちが投資した額を差し引いて売上金を子どもたちが計算していく。今回は5人のチームで1人400ポップずつ投資し、総売り上げが3,910ポップだった為、利益が1,910ポップとなり、1人あたり382ポップの給料という形となった。閉店後の感想では、「みんな美味しいって言ってくれたからよかった」「燻製を作るのに結構時間が掛かってお客を待たせてしまった」「次はもう少し美味しく早く作れるものにしたい」など達成感を感じたり、次回に向けた反省などの声が聞こえた。

## 4. 成果と課題

3年目の時には、子どもたちの多くがポップを消費できる機会が少なく、好きな子だけが仕事に毎回参加しポップだけが溜まっていく一方で、ポップの価値を感じられず、「仕事をしなくてもいい」と言う子の姿も多く見られていた。そこで、日常の遊びにも価値を加え、物を消費するような遊びの一つ一つ(プラバン、塗り絵、アイロンビーズ、工作等)でもポップを消費する環境にしていたことで、「～をしたいから、～が欲しいから、仕事でお金を貯めよう」と仕事に積極的に取り組むようになっていった。またそれと同時に、今までの遊びでは「間違えたから捨てる」「やっぱり他の遊びをしたいから、いらない」と折り紙やプラバン等の無駄遣いも多かったが、「自分が仕事をして稼いだお金で買ったもの」という認識を持てるようになったことで、物を大切に使う気持ちも育ててきた。

ミニ・ミュンヘンの活動開始から5日目となる今年は、高学年を中心に長くミニ・ミュンヘンの活動に関わってきた子どもたちが多くなったため、自分たち自身で企画⇒準備⇒出店までの流れを考えられる力が付いてきている。また、低学年の子どもたちもそうした高学年の姿を見たり一緒に活動をする中で、自然とミニ・ミュンヘンの制度や流れを自ら学ぶようになってきたと感じる。

そして、ポップを稼ぐことに喜びを感じながら、“自分の力で他の人を嬉しい気持ちにさせる”喜びも感じられるようになってきている。また色々な仕事を協力して達成することを様々な仕事を通し繰り返し体感していくことで、自分への自信にもつながり、仕事以外の遊びの場面でも自ら発信しリーダーシップを取って遊ぶ姿も多く見られるようになってきた。

今後の展開予定である【2.(7)地域の店や施設と連携しながら、その地区の職場で実際に働き、そこで得た地域の仮想通貨を、その地域の中で実際に消費していけるようにしていく。】の段階では、現在、隣にある老人ホームと連携をして、地域の仮想通貨をどのように作っていくか話し合いをしている。今後は、提携してくれる施設を探し、実際にその仮想通貨で何を購入できるようにするか、どの施設でどのような仕事ができるかなど、様々な課題があるが、時間を掛けて少しずつ地域に根付いていけるように活動を作り、話し合いを進め実現していきたい。その為にも、ミニ・ミュンヘン活動の継続が必要となるため、人事異動による担任の変更などの際にも引継ぎを行い、子どもたちの育ちを維持できるようにしていきたい。

## 指導計画

## ◎燻製屋のオープンまでの流れ

日時	活動内容	保育者の動き
7月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>燻製とは何かを調べ、実際に作るためにはどのようにすればよいか調べていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちからの“やってみよう”の声を聞き、答えをすぐに明示するのではなく、子どもたち自身がどのようにしていけばいいのかわかるように声を掛けていく。</li> <li>調べる活動が滞っている場合には、調べたい内容が書いてある本のヒントを伝えられるように教材の準備をしておき、自分たちで調べることが出来た達成感を感じていけるように関わっていく。</li> </ul>
7月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の桜の木を削ったものでスモークチップを作っていく。</li> <li>調べた方法で燻製に使えるような道具を準備し、実際に調理していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スモークチップを作る際は、安全に留意し、保育者がドリルなどで木を削り作成していく。その際、木の香りや特徴などに気付いていけるように、声掛けを行っていく。</li> <li>火の取り扱いは、保育者が安全に留意しながら、子どもたちの力で行っていけるように進めていく。また、高学年にも声を掛け、力を貸してもらうなど、全体が活動内容に興味を持てるように関わっていく。</li> </ul>
7月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の実践での課題を探り、どのような調理方法で作っていくか研究していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の反省を基に、今回はどのような事を改善していけば良いか一人ひとりの意見を尊重しながら聞いていく。その際に子どもの発言の正解・不正解にかかわらず、自分で考えられたこと、アイデアが浮かんだことを認め、子どもの考える意欲を引き出していけるように関わっていく。</li> </ul>
7月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>出店のイメージを作り、どのくらいの人・商品・材料が必要か調べる。</li> <li>どのくらいのコストがかかるか、いくらで売れば利益が出るのか計算し、商品を決めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理の方法が確定したことを、保育者も共に喜びを分かち合いながら、子どもの意欲が継続していけるように調べる活動を進めていく。</li> <li>計算の場面では、高学年には自分で考えていけるように声掛けしながら、理解が難しそうな低学年の子には、保育者が意味を簡略化して伝えながら、共に活動を行えているという喜びを感じながら活動に取り組めるようにしていく。</li> </ul>
7月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで調べてきたものを基に、必要な材料・個数・コスト・売値の決定を行い、メニュー表、ポスター等を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンバー同士で話し合いを行えるように援助しながら、不足点がある場合には、保育者が質問をする形で、問題点に子どもたちが自ら気づき、解決していけるように関わっていく。</li> </ul>
7月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちのポップを集め、園長の下で現金に換金してもらう。</li> <li>保育者と共に、近所のスーパーで材料の買い出しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に自分たちのお金を使うこと、本物のお金に換えてもらうことの重みを感じていけるように声を掛け関わっていく。</li> <li>他のお客さんの迷惑にならないように、事前に約束を話してから買い物を行えるようにし、値段や個数などを子どもたちで相談しながら決められるように声掛けしていく。</li> </ul>
7月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>燻製屋さんを開店する。</li> <li>売り上げの計算を行い、自分たちで給料・利益の計算をして売上金を分け合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店の準備、係分担を一緒に確認していきながら、メンバーと協力して進めていけるようにする。</li> <li>今までの頑張りや、自分たちで達成できた喜び、メンバーと協力できた事を認めながら、お客さん皆が喜んでくれたのは、自分たちの頑張りがあったからこそであると伝え、この活動での自信や達成感、次回への意欲を高めていけるように声掛けをして関わっていく。</li> </ul>



## 資料 今年度の燻製屋の様子

写真1



初めて燻製を行った時の様子(写真1)。「TVで見た燻製をやってみたい」の一声から実験を交えてスタートした。2～3年生の子が中心で活動を進めており、会社を興して仕事をするというよりは“とりあえず燻製を作ってみよう”と試行錯誤しながら、挑戦していた。

写真2



失敗してスモークチップが燃えてしまった時の様子(写真2)。「火の粉が飛んだのかな?」「フライパンも小さかったのかも?」と話し合う姿が見られた。

写真3



2回目の燻製を行った時の様子(写真3)。2～3年生の他に6年生も加わり、その子が中心となり活動を進めていく。この時は、フライパンを鉄板に、蓋には鍋でなくピザづくり用のドラム缶の蓋に変えて挑戦し、燻製したチーズを作ることに成功した。

写真4



前回、活動の中心となり燻製を作った6年生が、自宅で段ボール燻製器を調べてきて、5年生と共に製作している様子(写真4)。この時、「これで燻製屋さんをやろう」と会社を始めることが決まった。

写真5



燻製屋で何を売るか、どの材料をどの位仕入れるか、何をどれくらいで売るか話し合いを行い、その後チームで集めたポップを、園長先生に現金に換金してもらっている様子（写真5）。

写真6



近くのスーパーまで実際に自分たちで買い出しに行った時の様子（写真6）。想定よりも高いもの、安いものがあり「やっぱりこの数減らそうか」「こっちのカルピスの方が安いね。こっちにしよう」とその場で臨機応変に対応していた。

写真7



写真8



写真9

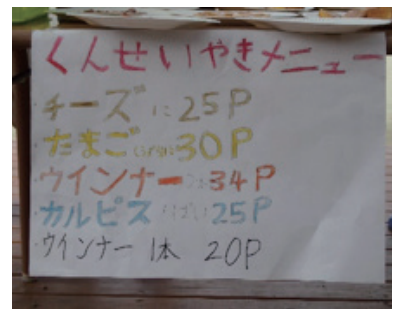


写真10



当日の調理の様子（写真7）。

受付の子が、誰が何を何個注文したかを記入している様子（写真8）。

販売メニュー（写真9）。お客さんはこれを見ながら商品を注文していく。

販売している時の様子（写真10、11）。紙皿のディスプレイも子どもたち自らで行っていた。

写真11

